

ひまわり在宅サポートグループ 仙台ひまわり訪問看護ステーション

及川 百合子 (副主任 看護師 / 仙台ひまわり訪問看護ステーション)

- 功 績** 2月に発生した福島県沖を震源とした震度6の地震発生時に、いち早く利用者さんの状況を確認し、断水している地域の利用者さんに対して水を届けるなどし、またその情報を即ケアマネジャーに提供したことによって、先頭に立って地域の高齢者の生活基盤の安全を担保した功績
- 推 薦 者** 阿部まなみ (所長 / 仙台ひまわり訪問看護ステーション)
- 推 薦 理 由** 地震発生後、及川がとった行動は、健育会で掲げるMVVに則ったものであり、他の職員の見本となる行動であったため、推薦させていただきます。

内 容

及川は入職して2年の看護師です。持ち前の明るい性格と、各ICTソフト導入時にも率先して使いこなすエネルギーなどところが職員、利用者さんに愛される所以です。仙台ひまわりは事業所化してまだ2年、これから利用者さんを増やしていく成長段階にありますが、そんな折、今年2月13日に震度6強の地震が発生しました。仙台ひまわりをはじめ、ひまわり在宅サポートグループでは即座にLINEWORKSにおいて安否確認が行われ、職員の無事は確認できましたが、各事務所で抱える利用者さんの状況まではすぐには把握ができませんでした。

地震発生翌日、及川は所長や他の職員とともに利用者さん確認優先順位表を作成、一人暮らしもしくは二人暮らしの医療依存度の高い方をピックアップし、状況を確認していきます。及川は訪問看護を行いながら、各地の被害状況を見ていたところ、塩釜地区において断水が継続していることを把握しました。

そこで、塩釜地区の利用者さんに独自に連絡をとり、困っていることが無いか確認していたところ、水が不足し困っている利用者さんを発見、そのまま事務所に戻り、ポリタンクに水を汲んで、その利用者さん宅に運ぶことにしました。及川の機転により、その利用者さんは一命をとりとめ、その後断水は解消され、地震後1週間でようやく元の生活に戻ることができました。

この及川の取り組みは評判となり、シルバー産業新聞において、『ビジネスチャットを活用した、感染症、災害時の情報連携の事例』として取り上げられ、ひまわり在宅サポートグループの知名度を大きく向上させるに至りました。

今回の事例において、及川の迅速な対応と判断、そして実行力が、利用者さんに「輝きの一日」を、ご家族には「安心を超える感動」を提供できたことは、健育会が掲げるバリューを実践できていると考え、理事長賞候補に推薦させていただきます。